市Ｐ実行委員及び小学校部会と枚方教職員組合との懇談会報告

実施日時：２００３（平成１５）年７月５日（土）午後２時～４時３０分
参加人数：教職員２３名　　保護者４９名

１．枚方市ＰＴＡ協議会会長あいさつ　　小西会長

小学校部会の懇談は今年で３回目の懇談です。去年は初めてブロック別の懇談をしました。先生と保護者がぶつかるのではなく、お互いが子どもたちのために腹をわって話し合っていけたらいいと思う。

２．枚方教職員組合委員長あいさつ　　浜中委員長

今日は、学校のあるべき姿を話し合えたらいいと思います。今日ここに来ている人達は、戦後の教育を受けている人達だと思います。戦後の教育は、教育基本法がバックボーンになっています。民主的で平和な社会を作るためには、教育が大事です。学校と保護者と教職員が力を合わせてより良い方向にもって行く必要があります。

３．柿木書記長より問題提起

今子ども達は
市Ｐ協の方からの関心を受けて
どのような学校をつくっていくのか
父母のみなさんと力を合わせて「参加と共同の学校づくり」にむけて
現在の学校の状況を考えると、保護者と教職員の懇談は大きな意味があるし、継続していくことが大切です。

４．ＰＴＡより質問

ふれ愛フリー・スクエアーでの、先生の対応は
子どもたちの安全問題について
先生たちの資質向上について
休日でのＰＴＡの取り組みに先生は出て来てくれるのですか

５．教職員組合より回答

ふれ愛は、ボランティア活動で、個々人の判断にもとづいた行動をよびかけている。
安全対策は、各学校が、積極的な対応をすすめている。
学校現場と民間の人事考課は、違います。教職員個々の評価ではなく、教職員の教育活動全般が、子どもの成長・発達にどのように寄与しているかを考えるべきと考えている。

現段階で組合として一律的な対応はしていない。ＰＴＡ活動の意義を考え、教職員全　体として前向きの対応をとることが求められているという考えです。

６．グループにわかれて討論

第１グループ

・週５日制、ふれ愛フリースクエアーについて

親としての希望や活動、今後の展望、また教師の現状など本音をお互い出し合うことができました。

・学級崩壊、教師や保護者の教育の実施について

学校現場の状況、家庭の状況、世の中の変化など、自分たちの育って来た時代とは、大きく変わってしまったことを再認識し、お互いにより強い協力関係を結ばなくては改善できないことを、話し合うことができました。

・まとめ

親として、教師として、お互いの共通点である「子ども」を中心にして、もっと相談しあえる場を作り、協力関係を持つ必要があるということで意見が一致しました。

第２グループ

・教員の資質について

病欠や体調不良なども能力が無いとか、指導力不足教員であるかのように言われるのはおかしいのではないか。

指導力がないといわれる中身をきっちりと見て欲しい。

「体罰をしたらクビだろう」などと高学年の子どものなかには、ふざけて教師につっ掛かってくる子どもがいる。

担任に何の相談もなく、一方的に教育委員会に話を持ち込む保護者の話を、しばしば耳にする。何の話もなく突然なので精神的にまいる。

親としては、学校の中身が見えない分、子どもの話だけを信じる傾向はある。

親の立場から見ても、態度に首を傾げたくなる親がいる。

学校で一般の先生方と話をする機会があればよいと思う。

・五日制について

子どもたちは今まで以上に午後からの授業に疲れていると感じる。

ゆとりがなく授業やそれ以外の楽しい部分がなくなってきている。

居残りで勉強を見たくても、子どもも教師も忙しすぎて、補習する時間がない。

何にゆとりを求めているのか、土曜日を休みにして、逆に授業時間が長くなり、わけのわからない状態になっている。学校はどう取り組みをしているのか親には理解できない。

・その他
学校の安全は大丈夫か、先生方は対応できるのかと不安だったが、先生方の話を聞いて安心した。

第３グループ
・ふれ愛フリースクエアーについて
各小学校の取り組みの紹介や、先生に一度参加して欲しいとの要望が、保護者から出ました。先生からは、早目に参加して欲しいと要請してくれたら出ますとの回答がありました。
保護者の意見をしっかり学校に伝えることが必要です。
・安全対策について
近隣の地域で問題があり、学校からは、１ヵ月後にお知らせが出たとの報告がありました。
・まとめ
先生と保護者は、しっかり色々なことを話し合う必要があると感じました。

第４グループ
・教職員の声
以前は放課後の活用が、指導時間に充てられていたが、今は時間に余裕がない。
土日に持ち帰る仕事も多い。多忙な毎日で、リフレッシュが必要。
低学年の子どもたちには、大変なエネルギーを使う。（見えない所にもアンテナを張る）
人を肯定的に見る習慣が池田小の惨事になった。（悪と決めつけないように児童に指導）
学校・学年毎に研究テーマを設け１年の成果を出す。
携帯で緊急時の対応（応援を呼ぶ）
来年から教職員も評価制度が導入予定
管理職からの縛られていることが多いので、下から“ああして、こうして〃と声に出して欲しい。
・保護者の声
子どもは先生を選べない。当たりはずれがある。→学校ではヒヤリングを実施。
ふれ愛のボランティアは限られた人だけで実施が現状。
参観日は、親も先生となり子どもを指導するような企画を実施しては。

第５グループ

・安全問題

来校者に対する名札の着用はやはり必要ではという意見が多かった。

まだ導入していない学校や検討中のところも多いようであった。

緊急連絡網は、通常の連絡網以外に登校班単位での連絡網など、複数あったほうがよいのでは、という意見があった。

・土日の行事に参加すること

個人的には協力したいという意見が多かった。

・学力テストについて

国が導入を決めたことなのでやめられない。

学校の序列化などにつながらない形で、どう活かしていくか。

７．全体討論、報告、まとめ

・各グループ討論の報告

８．枚方市ＰＴＡ協議会小学校部会長あいさつ　酒井部会長

先生と保護者との話し合いは､お互いを理解していく上でもとても大事だと思います。そして、このような話し合い、懇談会を各小学校で行うことが今の時代にとって、ますます重要になっていくと思います。